

## 令和4年度 事業報告書（令和4年4月1日～令和5年3月31日）

新型コロナウイルス感染症の影響で長らく電話相談事業の時間短縮を余儀なくされていましたが、令和4年度は終始、通常体制を組むことができました。財政面では新たに「継続寄付」の募集に取り組みました。日本財団による助成、経費節減の推進により、一過性ではありますが評価損益等調整前でみると黒字となりました。

### ■事業活動

「認知症110番」存続に向け、4月より「継続寄付」の募集を始めました。令和4年度で終了した日本財団からの助成金881万円も含め、収益の中から865万円を特定資産「電話相談事業積立資産」に繰り入れました。同資産の残高は令和4年度末時点で1701万8千円となっています。

2月に一般社団法人、日本音楽健康協会と各分野で協業していくことで合意しました。

### ■電話相談「認知症110番」事業

年度当初より一度も時間短縮をすることなく実施できた一方で、相談件数は1035件と前年度を100件下回りました。1035件の内訳は新規の方470人、継続利用の方565人で、新規の方がじわじわ増えています。告知強化によって新規の方をさらに増やすとともに、相談員のスキルアップを図り、新規の方を継続利用につなげるようにしてまいります。1月にはオンラインを活用し、認知症新薬に関する相談員向けの勉強会を開催しました。

### ■シンポジウム事業

3月31日にオンラインの公開講座「いきいき健脳をつくる」を、一般社団法人「生涯健康社会推進機構」と共催しました。新井平伊会長に基調となる講演をしていただきました。約450の方が申し込み、参加者の9割以上が「満足」と答えるなど盛況のうちに終わることができました。

### ■調査・研究事業

財政難に加え、コロナ禍で多数の参加者を集めるのは難しく、断念しました。

### ■財団報「新時代」の発行

133～138号の6回発行しました。

### ■内部運営

令和4年度に実施した主な会議は▽5月12日の決算理事会▽6月3日の定期評議員会▽6月3日の書面による理事会▽3月14日の予算理事会です。